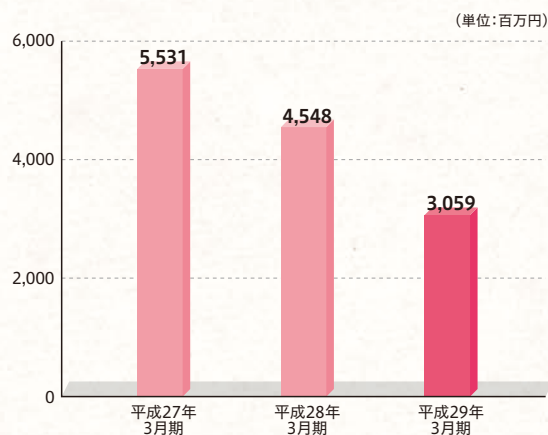


# 業績ハイライト(単体)

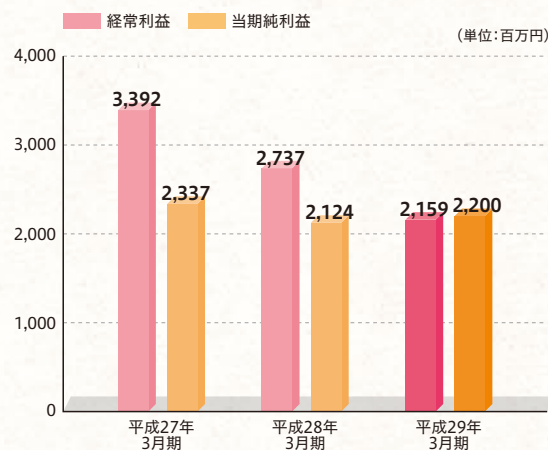
## コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したことなどから、前年同期比14億88百万円減少の30億59百万円(増減率△32.7%)となりました。



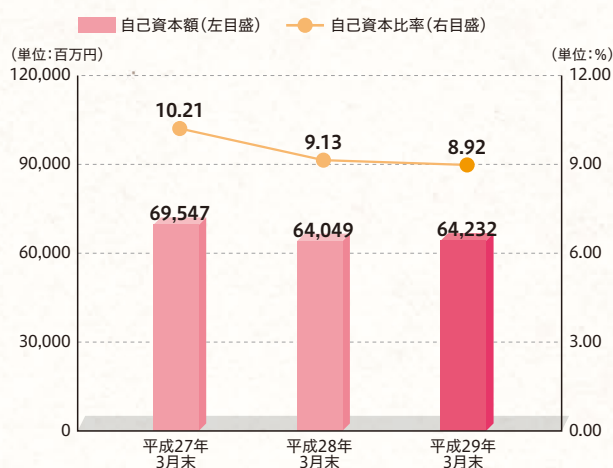
## 経常利益・当期純利益の状況

経常利益は前年同期比5億77百万円減少の21億59百万円、当期純利益は前年同期比76百万円増加の22億円となりました。



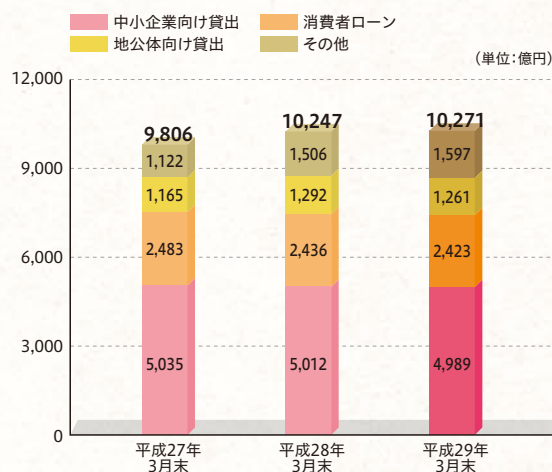
## 自己資本比率の状況

単体の自己資本比率は、当期純利益を22億円計上したことで自己資本額(分子)が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット(分母)が増加したことなどから、平成28年3月末比0.21ポイント低下の8.92%となりました。



## 貸出金の状況

貸出金残高は、中小企業を含む事業性融資が増加したことなどから、平成28年3月末比24億80百万円増加の1兆271億92百万円となりました。



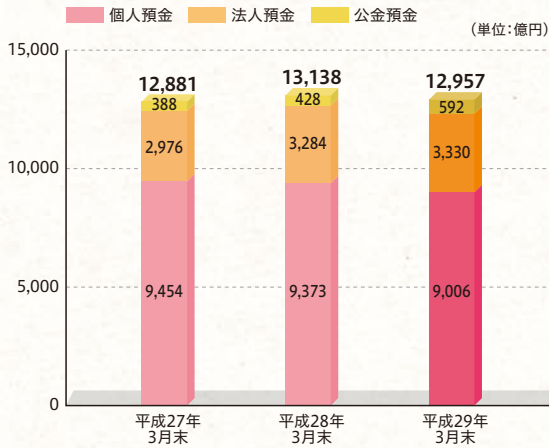
### 用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支のことを指します。



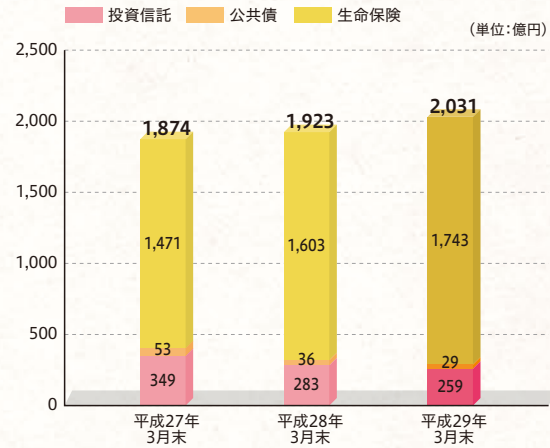
## 預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、法人預金は増加したものの個人預金が減少したことから、平成28年3月末比180億52百万円減少の1兆2,957億65百万円となりました。



## 預かり資産の状況

預かり資産残高は、安定志向にあるお客さまニーズへの対応により生命保険残高が増加したことなどから、平成28年3月末比108億77百万円増加の2,031億91百万円となりました。

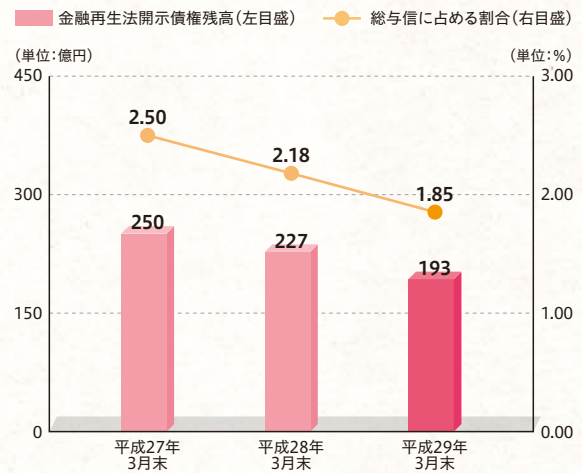


## 金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成28年3月末比33億72百万円減少の193億47百万円となりました。

総与信額に占める割合は、平成28年3月末比0.33ポイント低下し1.85%となりました。

## 金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



- 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
- 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。